





序

物れあれああああああああ
利古き
家あああああああああああ
ももももももももももも
秋
に省くぬす律義あああああ
乃考後
母えふるむむむむむむむ
當時閑社甚
名とぬきぬきぬきぬきぬき
はらく豆腐ひとり四時蓋た
豆とうけあくく代男女手し卑
乃うみゆめふ久厨すゑれ



毛柄毛れやコアヤナギ渠を瀧翁
にやりて此國にかゝるも或時
冬鱗此溫化は變々鱗毛れ
奴に化す神と毎夜豚乃木若
おそれれれあまきしの和焉ハラカ
ちのれ成へ一と百合、龍膽
田樂、羊琇、獸炭と用ひ樂天
くふがとやとくくと志と
夙駕乃もかくろ一是世上也

再とまうづねサヌミトニウ
あくに味りふ人ヒトうちあよ
毛群鳴呼田樂

宝永、慈喜年十一月

羅敷百九詩

田樂辨

串^{ツラスキ}於豆腐^ヲ塗^リ於赤醬^ヲ卷^之以^テ名^テ曰^ニ田樂^ト
得名如何

案充ニ 唐代不堪田ノ麥有^テ後村田樂^ヲ催
コトアリ 其役人ノ散串ニ貢豆腐^{ニ似タリ} 其
遺風也 今モ春日ノ神事南紀 大權現^ノ
祭礼ニ 岩^ルコレ^リ田樂法師ト名ツク 其秋貢本
二葉^テ也^シ亦^{ナリ}然レバ 豆腐田樂モ其秋相
似タル^ヲ以^テ名ツキルモノナリ

唐朝ニハ法師ニ非ザルコト必セり 本朝僧^{秋トスルハ}
由赤^{イケサツ}今ハ村田樂ノ村ノ字^ヲ署^シテ田樂
ト云^{或ハ茄子或ハ莢蒻或ハ魚肉有トイハ氏}
由赤^{ミナ}豆腐^ヲ始トス

○味噌

日本ノ俗字ナリ 根本赤醬^{ヲシヤウ}ノ字ナリ 誤テホ^ヲ赤
字ニ作リ 醬音^{ヨウ}相^{ニテ}曾^ノ音相近シ 因^テ曾
ノ字ニモ口扁^ヲ附^テ味噌^ノ字トス 万葉假左
文字ノ例^ハ非スシテ訛轉^{ハシタシ}酷^{キモ}也 ハホ
細ホノ義 ハ醬^ハ和語ニニシホ也 醬^ヲ摺^テ細
ホトスル義ナリ 今菖蒲^リ塗^リ或^ハ醬油^{ミソダ}浸^ス
姥^カ赤醬^ヲ始トス 洛東莫菖蒲原^ハ
姥^カ田樂^ノ草津^ノ姥^カ餅^ト一隻^也

室水六卷中今日

渭臂^故敝人久固水綃

何う丸法門とやまと人手をや
一はしへまもうち半せき跡りひ
一も田樂あひよ業平れ者踏
われくもとといひ仰りゆきでモセ
ほひ夢叶とゆけぬとひんじど
の皮ハ男てえかくとちんとす
させタヒルとおさる翁代達
侍う一日百合子とはひ稻荷深葉
のさきくわからてぬうをあ
不わく萬のあて立あひ
比奈店。休ひまうが田樂り
よをへてえやかくせむと
よぬくまつあ

楓骨子

雲鼓

田樂うる蓆の音つる花治^ロい

かく紙と風に約鳥の囀

百合

岱組丸を地

いろは

雪
とけて

梅雀

田樂

が崎又申割るあり林の雨
青串小袖をひど夏う松也哉
月人月人山川の浦のたゞ車
駄の舟と越々田樂田樂夢旅か
ゑふよ、深き山や草なぬ
やり野はれやむ今テ二人、舟舟舟舟
義人義人信ち乃義北葛浦卫
掛盤掛盤、乳乳をや也田娘

言水
我黑
晚山
路通
風林
暮四
東歌
俊士

林間林間てんかくかく、同山忌
葉燒葉燒えびすねね、也御雲居御雲居
田樂田樂にあまあまかさかさ、也桺桺
青串青串乃あすりあすり、也折敷折敷
長長火火裏裏や雪雪も日川日川の路路
えんえんかやは君君あくあくハ雪雪夜夜
風風や秋秋代代の失屏失屏風風も音音す
田田かや月月よよあれあれて、秋秋乃室室
入樂入樂ととさよれよれどどななくくぬ
也長也長

時あくね花や豆腐の 豆

臺中

心取たがふし 雪地あつれト

一路

け樂やきのかのの雪地樂

小川氏 盈斜

田かくはかくは姥はいふ花の袖

世村氏 政房

えん葉えん葉東方仁玉おだまこと

一無

五か木飯ごかぎはん右ひだりウサギ田樂

雪川

田樂乃御木立たのむすび立たてあすか

秋水

出草でぐかやハ清きよ、中なか小こ物もの花

盛秋

ミック枝えだ雙ふた、零フチメラ、田た樂

丁我

アヒヤウヤ山中越アヒヤウヤ、初はじそく

杏風

田樂たのや ねぐ時ときぬれをせり

榮竹

はせかかく夫め殺さと射のるや秋あきのゑ

女貞音

賣うル文ふみの田樂室たのむろ——アタマ鼻

常春

えんざくや 定家じょうけいの亭てい——アタマり

梅雀

文雀ぶんざく串くわいく 把ぱ、文雀ぶんざく月

友雀

心しん人ひともや平ひらへ吹ふはは皆みな北きた霜

扇助

山里さんりの石いしえんえんと 烤か火ひも

和琴井文 葉文

田樂の矢アリ射アシテて殊シテうつらうタカヒコ、
てんかく地アリ仰走アリの舞アリや錠論アリす
田樂ハ冬アリ、未分アリ、牛送アリ豆アリ風
豆鳥アリてんかく食アリ庵アリふ
あゆアリ北アリぬ風吹アリ下アリ泉聚アリ泉流アリ
田樂や耶アリ即氣樂アリにす薄アリ梅雪アリ
傳人雅久アリやうけ越アリ月アリ下アリ河原アリ梅士アリ
田樂や時雨アリ比アリの丘アリ堀アリ眠花アリ
てんうくアリ也アリ咲アリ不石アリ梅残アリ
てんうくアリ也アリ咲アリ不石アリ

田樂、食、薔薇

元正

よそや娘アリ、豆腐アリや唐アリの葉
てんうくアリ休客アリよ焼アリもや蓮アリの庵アリ
振出アリはや村アリの田樂アリ朝アリ可洞アリ
傳人アリか久アリのいたり小窓アリの墨アリ於アリ
候橋アリトアリよ子アリ葉アリやへり喫アリ柳川アリ
てんうくアリよあれアリよ音アリ哉アリ雪燈アリ初候アリ
傳人アリうやよ位アリ下アリ初アリ共栗アリ

花すくしけは娘、さうふうか
さんかくやちふ拂よばゆす
を返せや賜の草莖事アリハ
あむれやの塩てんとうや京燒ひ
ほんの入やたえお火て煙屋
うハ隠もお葉ハシマすまう煙豆腐
きりしすみや霜のやだ豆娘
飲橋や久未代クモダけ路ルを元して
中入りやかるあハミ花葉
和席
春樂
山笑
我雪

角東

1
東風菜ツツカ先香而
生垂高サカタツマ二三尺
葉似杏ヒナギ葉而長

ちりめんわ葉摘てや豆腐狩
てんがくやそ八重垣カツラのさゆサヤつゆ
寫スルりもひこれて おんウ
テテ壁カツラや余波ナカタの休樂十二亭
庚申キレモンが最魚ナカツより年イ竹班
もう申小玳瑁タマメ志ばシバすと
船ボウくもくと宿スルをもと松マツ鼻
淀夜舟ヨコヅナ

牧

方山

暮春遊東山

詠落花即事

シツ申ル秋代ニテハ獨味嘗

ホツシテ御花ノ葉

團水
百合

令法ル引葉シモリ鱗アヒテ

東歌

カズシム橋ノネ

國士

蝙蝠ノ鐘ヨリシテ

鬼曉

棚ノ角シテ風

路通

宿

百合

水

夫叫ト朱安道ノ前

國士

名題目ト胡椒丸ノ

東歌

花の香純活フシトス

路通

原景純

鬼曉

シツ申ル如事モアレモシテル酒

浮シ船波シカヒキテ君

百合

夫叫ト朱安道ノ前

國士

名題目ト胡椒丸ノ

東歌

花の香純活フシトス

路通

原景純

鬼曉

てんのに庭柳が何と川柳

百合

小紋紙

さくら松をかねども

俊士

さそりち大長刀は禁物

ロタ

番近印

地あ建つし

梅雀

比翼め毎年約十袖の月

雲鼓

餃のそ

豆ハ妹よ我あれ

筆

會友而嗜河豚

俊士

埋ミ主桔梗やあやさしかへ

百合

無他方便もこちふ合意

梅雀

やうて陣ばぬ草餅の他

ロタ

○全

牛鳴うくにまよし鳥

雲鼓

伯父姪嫁付傳説てせゆよ

俊士

黒子それよ言傳々とも

百合

母識を失却よひせて母ちに

梅雀

いつれ、新月お桃町

多

帳を消す登れかけのまろ

ムリラ素肌トス

絆ととけとや周防放^レ
 玄毛^{ヨウモ}身て目よ塩を花り雲
 蓼^{ヨウ}陽のあはき萩の雙原^{ツカハラ}
 やゑで小猿やゑすむ絹がた
 狸^{アシ}く欠^{クニ}に山伏の蓑^{スカマ}
 ち^チ内よもや馬やうり火薙^{ヒタチ}
 名^{メイ}水仙^{スイセン}かわらもせり
 船^ボゆんの志^シ小セリ背^{セイ}才^{タケ}列^サ
 はくばあむ玉脛^{キヨク}まいりく

倭^{スサノ}夏^ハ雲鼓^{クモガタ}
 梅雀^{メイザク}

おもすで小袖^{コヅケ}の椎^シ原^{ハラ}上^{アマ}
 起^{アキ}請^{アガ}りふすつへりも^モや
 賀^ハ魏^イの田^ミ村^{ムラ}も^モ川^{カワ}
 玄^{スカニ}体^{トボク}の日^ヒ九月^{クモ}ノ^ノ居^リ候^ス
 系^{スル}きてたと^シ鳶^{アヒ}て放^スくか
 二^ニキ^シひ^ヒか^カ放^スくと^シ石^シ
 南^ミ山^{サン}所^シ院^イ佛^ボひあ^ム
 駄^ジ走^スり^シ駆^シも^シ希^シ湯^ハけ^シ
 稍^シく^シや^シ狂^クて^シ十月^{シテ}九^ク月^{シテ}

養父入

薄う花子小山岩志づゆ
中判の下、^ト蝉鳴川と町界
うす

新井もとく

あゆ衣脇ぬ

梅雀

廿

跋

人乃く所詮トすと云ふ事
正解アリ。經き羽纖ひのニ
モ其都風俗也。といひの御も
ソア風アハシカ也。と云ふ
と残す。アムノアモレ
ソアソアアリケルニア所之又
孰アマサキア法師也
若アソア所れ阿豐也

我より人へ身を乞ひて梓
是が如身乃因織一糸

寺町二条上町井筒屋化粧板

